

DX時代の新たなマネジメント

2024年6月

JACIC審議役 三橋 さゆり

The logo for JACIC, consisting of the letters 'JACIC' in a bold, blue, sans-serif font. The 'J' is stylized with a small gap at the top.

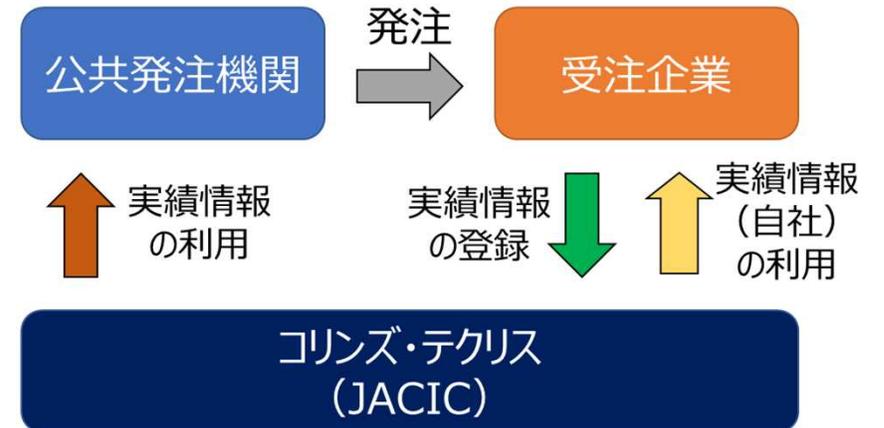
JACICが提供するサービス

- ◇ コリンズ・テクリス
- ◇ 入札情報サービス (PPI)
- ◇ 電子入札コアシステム
- ◇ 土木積算システム・データの提供
- ◇ コブリス (建設副産物情報交換システム)
- ◇ 建設発生土情報交換システム
- ◇ JAC ICルーム

◇コリンズ・テクリス

・2023年8月より公共発注機関が登録内容の確認をオンライン化で実施できるよう新たに機能を追加

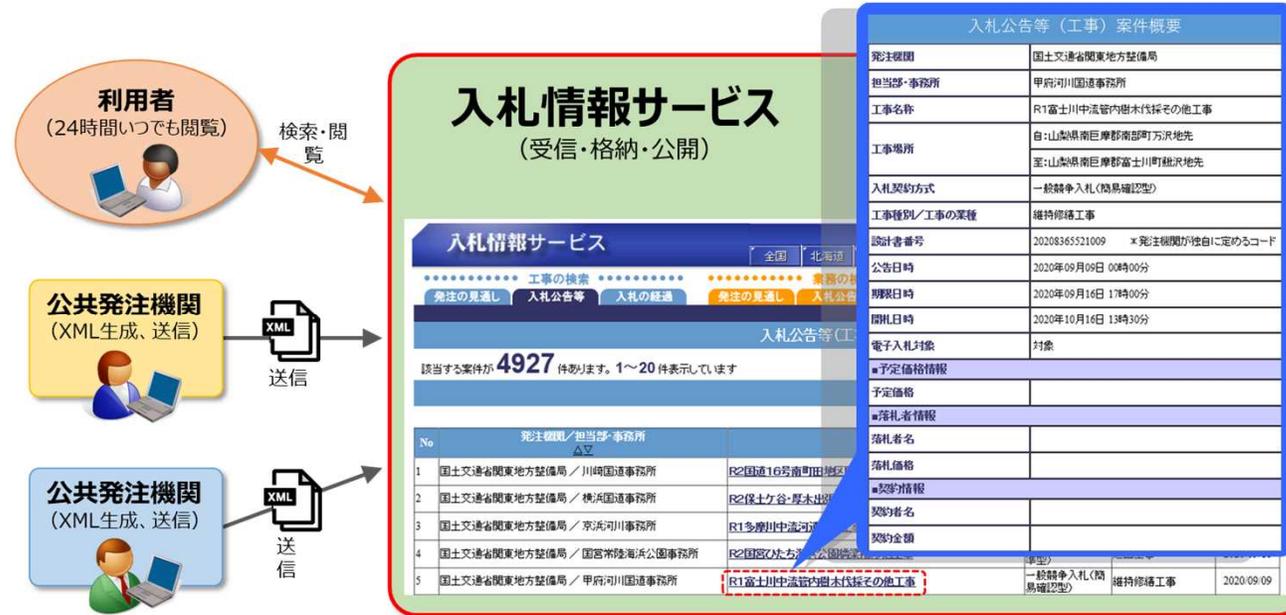
コリンズ・テクリスのしくみ



■ オンライン確認のメリット

公共発注機関・受注企業	ペーパーレス化、事務手続きの簡素化・迅速化
公共発注機関	虚偽登録の防止
受注企業	負担 (登録時の添付書類のアップロード)が軽減

◇入札情報サービス (PPI)

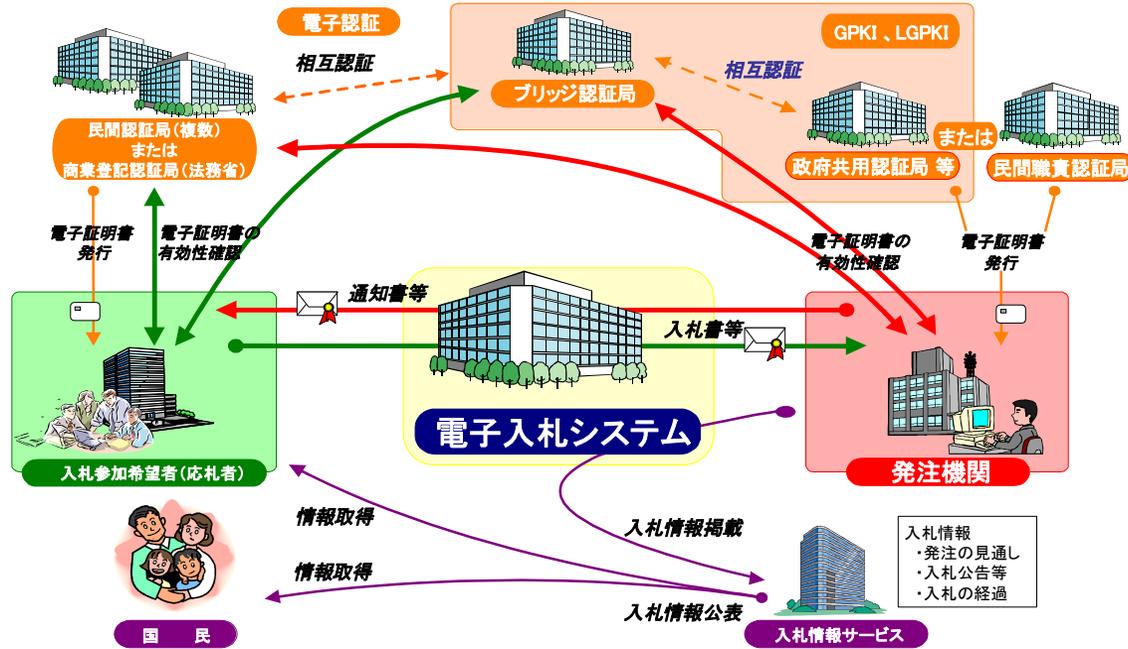


公共発注機関が発注する中長期発注見通し、工事・業務の発注の見通し、入札公告、入札経過（入札結果）などの入札情報を、インターネット上で一元的に公開すると共に、様々な条件指定による検索、閲覧が可能な機能を提供しています。

・令和6年度は、次期システムのリリース（令和6年6月予定）及びシステム移行を滞りなく実施し、次期システムによるサービス提供を開始する。

◇電子入札コアシステム

電子入札システムの動作イメージ



発注者の入札事務の効率化

- ・書面または電話による通知事務が不要
- ・入札会場の準備、立ち会いが不要
- ・入札業務の迅速化・省力化を実現
- ・落札者の判定が容易で、担当者の負担が軽減
- ・応札者への個別対応が軽減
- ・入札事務費用の低減

応札者の利便性の向上

- ・発注機関等に出向くことなく、事務所に居ながらパソコンで入札参加申請書の提出や入札が可能
- ・設計書の閲覧や入札のために発注機関や入札会場に出向く時間や費用を軽減
- ・1枚の認証ICカードでコアシステムを採用している全ての発注機関の入札参加が可能

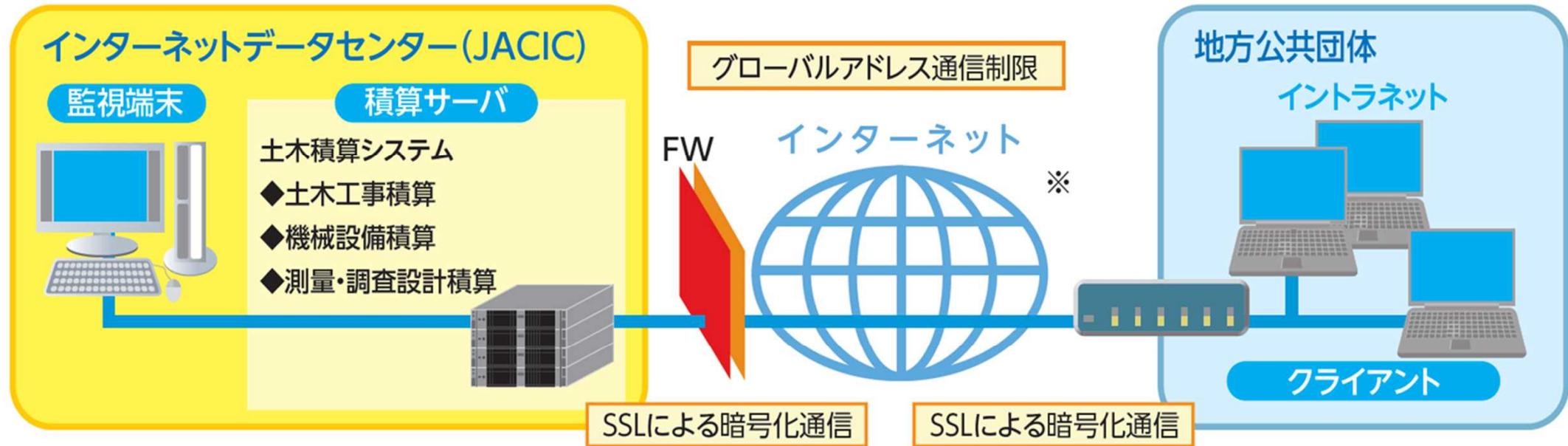
透明性・公平性の向上、不正防止

- ・入札の過程や結果が容易に確認可能
- ・電子認証による「なりすまし防止」
- ・暗号技術による「文書内容の秘匿」
- ・電子署名、署名検証による「文書の改ざん防止」

電子入札コアシステムの採用によって、公共発注機関におけるシステム導入コストの低減が期待できるとともに、『発注者の入札事務の効率化』『応札者の利便性向上』『透明性・公平性の向上、不正防止』に大きな効果が期待できます。

- ・令和12年（2030年）前後に実施される「暗号強度要件変更」に向けた設計、検討を行うなど、時代に即したシステムの更新等を推進する。

◇土木積算システム ・ データの提供



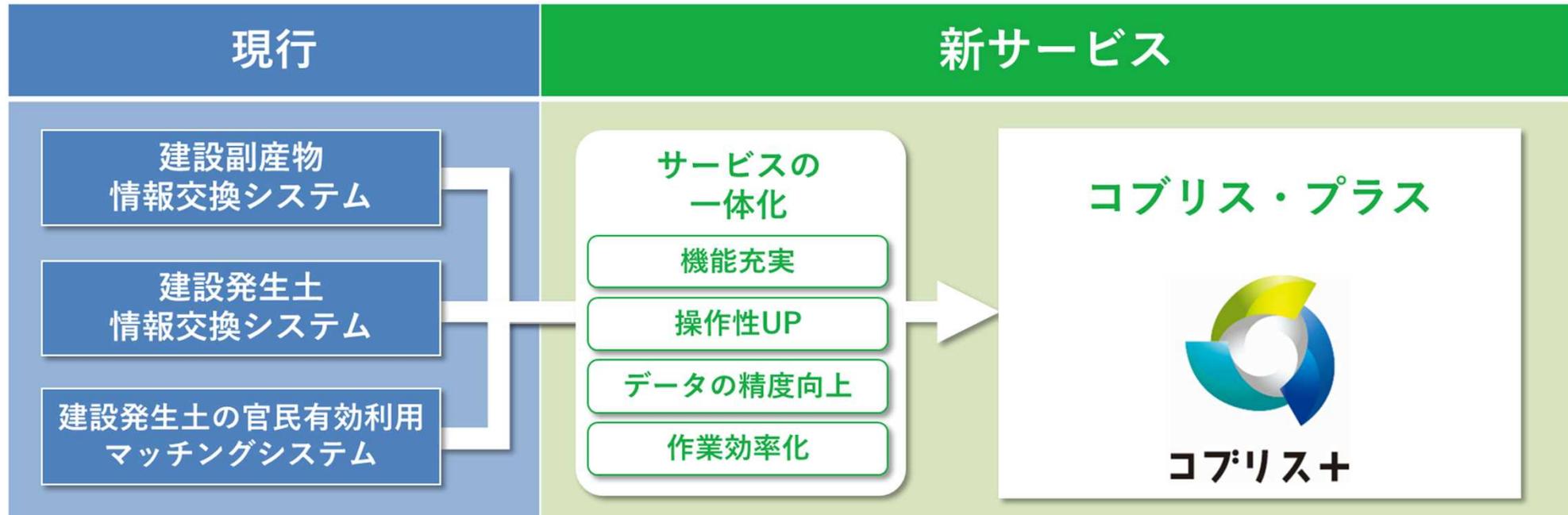
※情報セキュリティ対策強化として、都道府県および市町村が共同整備・利用するインターネット接続環境である「自治体情報セキュリティクラウド」経由でも利用実績があります。

JACICでは、これまでの国土交通省積算システム関連業務の経験・ノウハウを活かし、「土木積算基準データ」「土木積算システム」を提供しています。

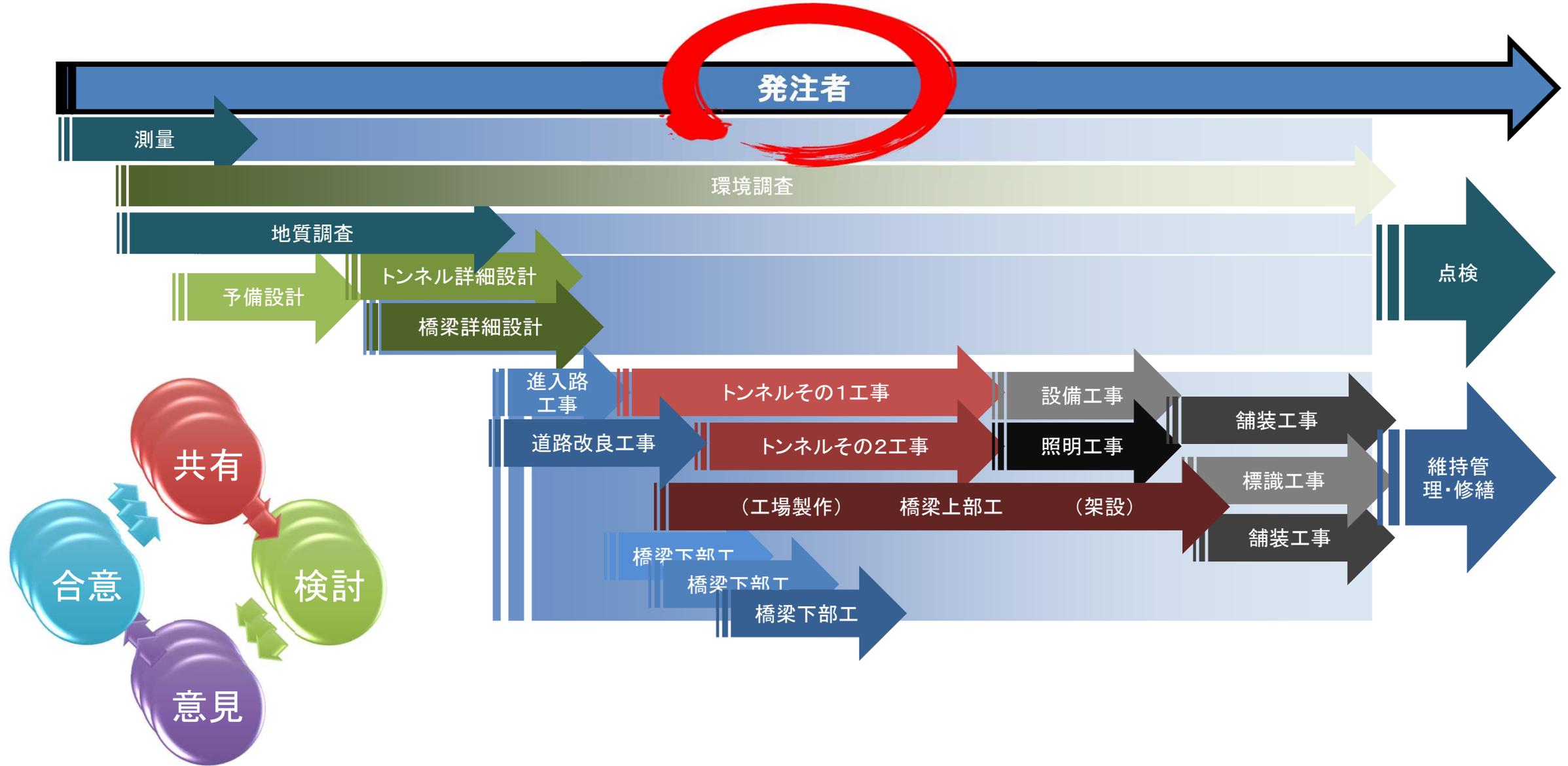
- 国土交通省の現行の土木工事積算システムについて、BIM/CIMの進展に対応するなど、積算業務の一層の効率化や近年の情報技術や環境の変化に対応した次期積算システムの開発を支援

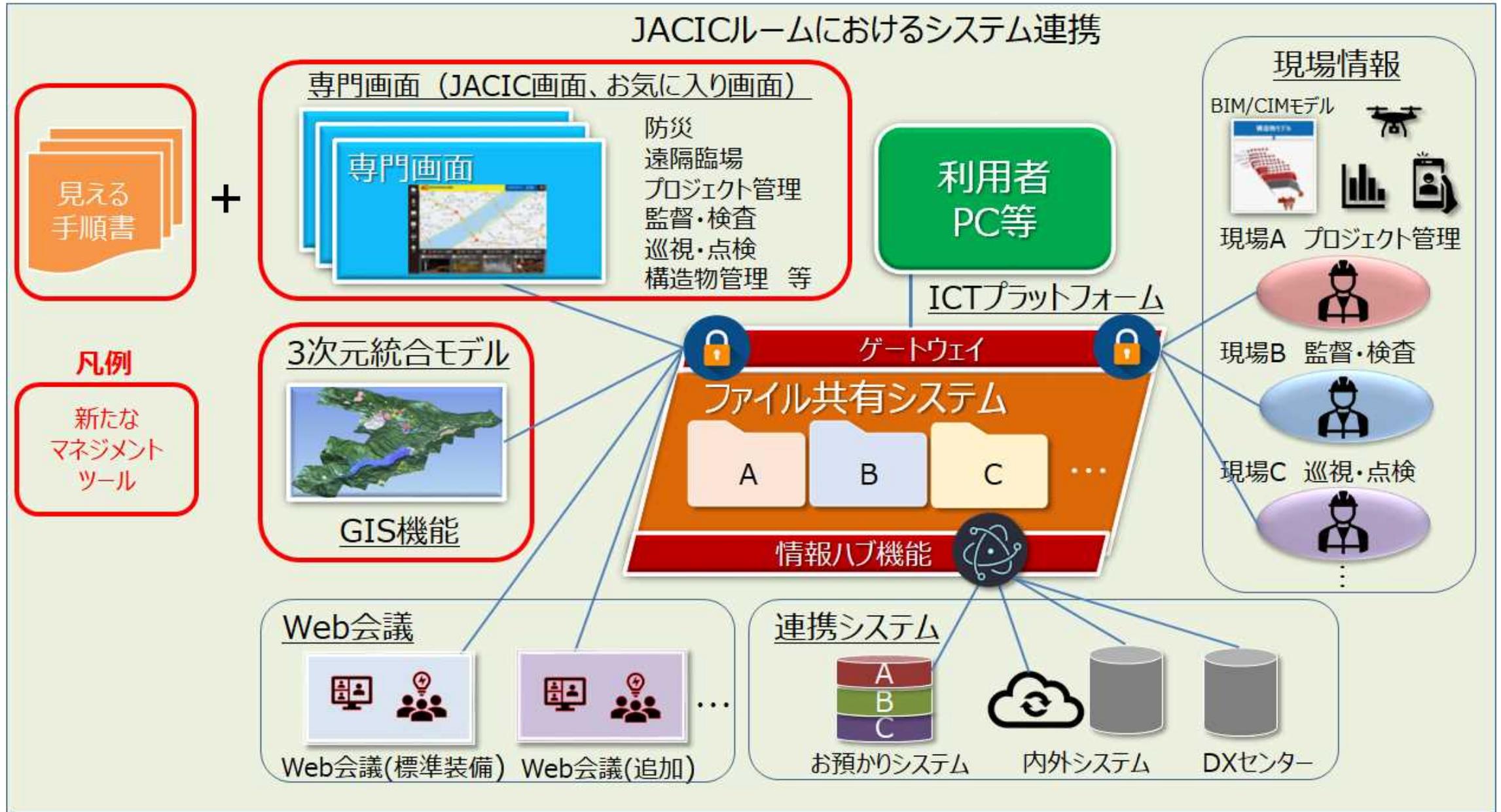
- ◇ コブリス（建設副産物情報交換システム）
- ◇ 建設発生土情報交換システム

副産物・発生土システムを全面的にリニューアル
～「コブリス・プラス」として2025年5月にサービス開始予定～



立場と専門性の異なる多くの関係者の共同作業 常にメンバーは変化
常に関わり続けているのは発注者だけ





- ・現場における様々な情報やデータを、一つの画面で組み合わせ可視化でき、必要な作業に関して素早く、効率的、効果的に利活用できます。
- ・見える手順書(システム)を画面で展開することで、画面を“見る”から“使う”へと進化することができます。
- ・JACIC画面は防災、プロジェクト管理、巡視・点検、監督・検査等目的に応じた多様な専門画面を順次構築・提供していきます。

■ 利用イメージ

The screenshot shows the JACIC mobile application interface. At the top, it displays the date and time (2023年10月16日 17:19) and a 'ログアウト' (Logout) button. The main area features a map with various markers and a 'サブ画面' (Sub-panels) section at the bottom showing multiple live video feeds. A 'ドロップ' (Drop) panel is also visible, displaying a timestamp and location information.

テロップ機能
指示や報告ができます。

情報ハブ機能
事務所外部情報を表示できます。
外部情報例
・川の防災情報
・気象庁
・日本道路交通情報

地図機能
地図上にピンを表示することで、現地状況を素早く把握することができます。
現場で撮影した写真を位置と共に自動登録
任意地点を設定
現場の作業員(端末)の位置を表示

メイン画面

基本メニュー

リンクメニュー
自由に構成することができます。

写真機能
撮影した写真が地図上に自動登録されます。各地点の写真をメイン画面に表示し、サブ画面にて一覧表示することが可能です。360°画像にも対応しています。

LIVE配信機能
各地点のLIVE映像をリアルタイムで確認することが可能です。LIVE映像は、メイン画面表示、サブ画面一覧表示が可能です。

➤ 現場における様々な情報やデータを、一つの画面で組み合わせ可視化でき、必要な作業に関して素早く、効率的、効果的に利用できます。
➤ 防災やプロジェクト管理、巡視・点検等の目的に応じた様々な利用が可能です。

事業監理CIM(施工段階から維持管理段階も見据えた事業全体を監理)と統合監理GIS基盤
ダム堤体等の諸元を直接付与、施工段階における施工管理情報、品質管理情報、観測・計測等を外部参照情報として情報管理

**迅速な意思決定
と適正な行動を
支援**

3次元GIS 2022年3月29日 18:00

橋梁

No.	2
名称	天龍橋
属性直接付与	表示
共有リンク	表示
備考	

トンネル

No.	3
名称	天龍橋トンネル
属性直接付与	表示
共有リンク	表示
備考	

ダム本体

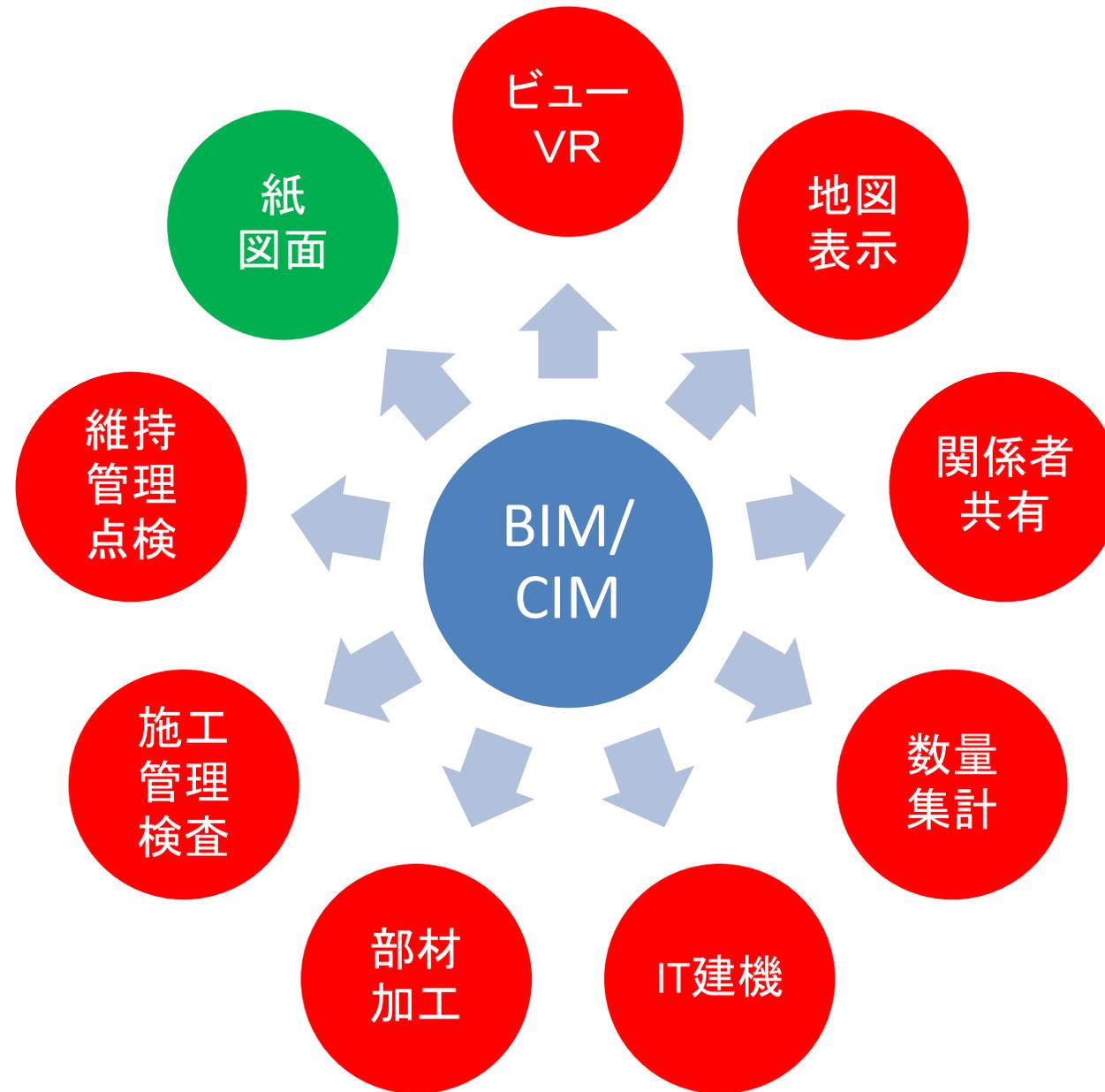
ダム高 (m)	112
堤頂長 (m)	232
貯水池容量 (EL,m)	435
最大貯水池堤頂長 (m)	395
堤頂幅 (m)	9
洪水面積 (km ²)	95.9
洪水容量 (km ³)	1.1
共有リンク	表示

外部参照

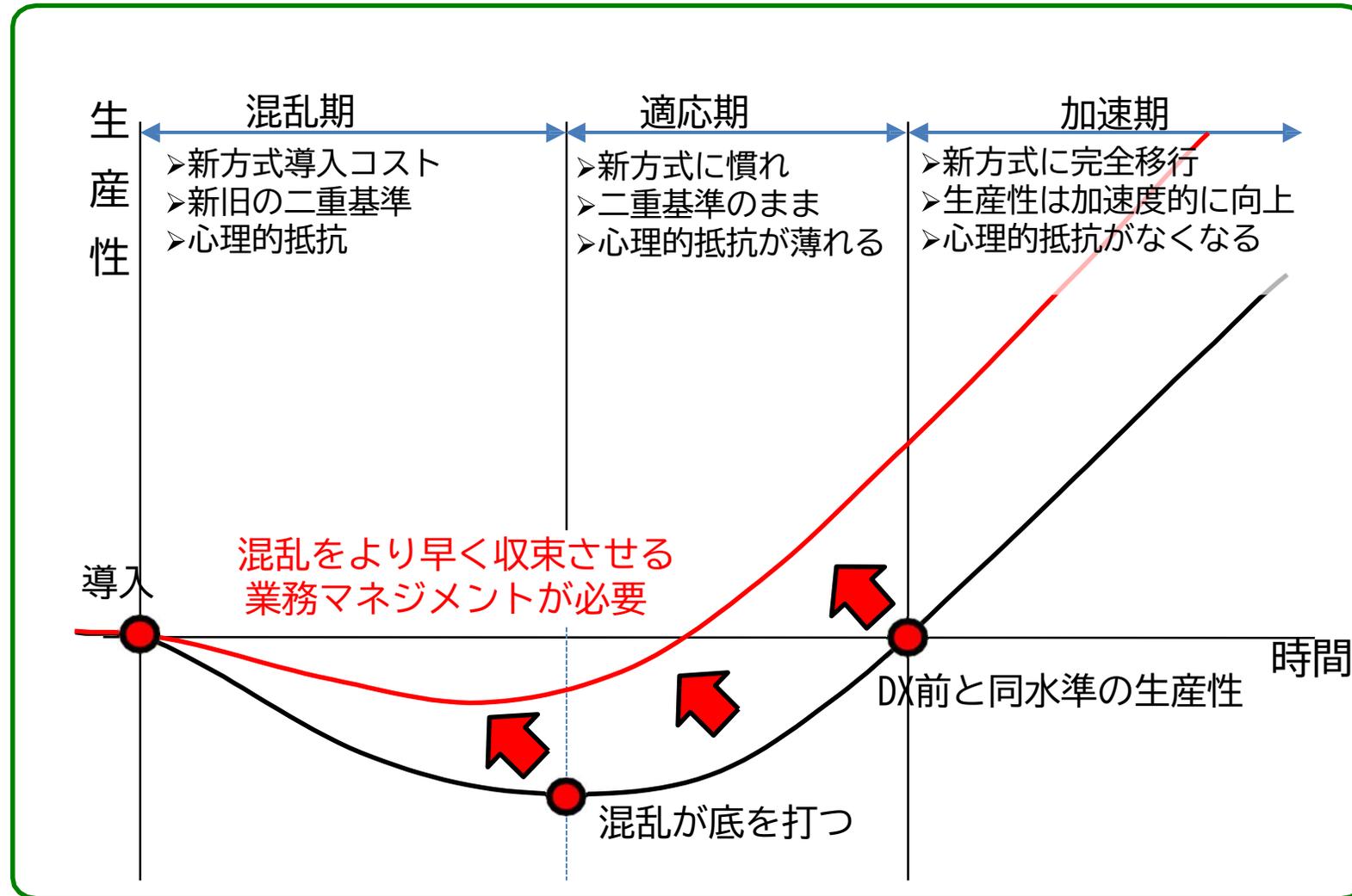
- 統合CIM用データ 2021年12月21日、更新者... 2ファイル
- 平成30年度 ダムサイト地質図 2021年12月21日、更新者... 81ファイル
- 平成31年度 ダムサイト地質図 2021年12月21日、更新者... 54ファイル
- InfraWorks 2022年2月9日、更新者... 4 GB
- ダム・受領データ確認.xlsx 2022年2月9日、更新者... 867.3 KB
- ダム座標(トンネル・橋梁).xlsx 2022年2月9日、更新者... 13.8 MB
- ダム座標(トンネル・橋梁).xlsx 2022年2月9日、更新者... 13.8 KB
- A地区.ZIP 2022年2月9日、更新者... 1.7 GB
- B地区.ZIP 2022年2月9日、更新者... 1.2 GB
- 【追記】ダム座標(Viewer).xlsx 2022年2月9日、更新者... 5.8 MB

外部参照

統合CIM用データ	2021年12月21日、更新者...	2ファイル
平成30年度 ダムサイト地質図	2021年12月21日、更新者...	81ファイル
平成31年度 ダムサイト地質図	2021年12月21日、更新者...	54ファイル
InfraWorks	2022年2月9日、更新者...	4 GB
ダム・受領データ確認.xlsx	2022年2月9日、更新者...	867.3 KB
ダム座標(トンネル・橋梁).xlsx	2022年2月9日、更新者...	13.8 MB
ダム座標(トンネル・橋梁).xlsx	2022年2月9日、更新者...	13.8 KB
A地区.ZIP	2022年2月9日、更新者...	1.7 GB
B地区.ZIP	2022年2月9日、更新者...	1.2 GB
【追記】ダム座標(Viewer).xlsx	2022年2月9日、更新者...	5.8 MB



変化に対する心理的抵抗の緩和



- 最新技術を導入するだけでは不十分
- デジタル技術を前提に建設生産システムそのものを変革すべき
- 発注者こそが変革の先頭打者



ご清聴ありがとうございました

<https://www.jacic.or.jp/>

JACIC